

証券コード 9997
平成28年 6月13日

株 主 各 位

埼玉県上尾市宮本町4番2号
株式会社 ベ ル ー ナ
代表取締役社長 安 野 清

第40回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第40回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することが出来ますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成28年6月27日（月曜日）午後5時50分までに到着するようにご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成28年6月28日（火曜日）午前10時
2. 場 所 埼玉県上尾市宮本町2番1号
アリコベールサロン館4階 東武バンケットホール上尾
（末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目 的 事 項
報 告 事 項
 1. 第40期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第40期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）計算書類の内容報告の件
- 決 議 事 項
 - 第1号議案 剰余金処分の件
 - 第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）7名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類ならびに事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.belluna.co.jp/>）に掲載させていただきます。

(提供書面)

## 事業報告

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当連結会計年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度のわが国経済は、設備投資が堅調を維持する一方、中国や新興国の景気減速で輸出が伸び悩むなど景気の先行きは不透明な状況となっております。また、個人消費についても雇用環境が改善しているものの弱含みで推移しております。

このような環境下におきまして、当社グループは引き続きポートフォリオ経営の強化に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は131,742百万円（前年同期比9.2%増）となりました。営業利益は総合通販事業での収益改善などにより8,366百万円（同31.2%増）となる一方、為替相場の変動による利益が前年とは逆にマイナスとなったため、経常利益は7,105百万円（同29.3%減）、また、貸倒引当金繰入額などの特別損失もあって親会社株主に帰属する当期純利益は3,544百万円（同44.6%減）となりました。

なお、事業別の状況は次のとおりであります。

[総合通販事業]

衣料品の売上は堅調に推移しましたが、家具・雑貨等が伸び悩み、売上高は69,831百万円（同1.0%増）となりました。

[専門通販事業]

新規に株式取得した丸長㈱が加わったことなどで、売上高は36,823百万円（同15.0%増）となりました。

[店舗販売事業]

アパレル店舗事業に加えて、和装店舗事業も順調に売上を伸ばしたことで、売上高は10,307百万円（同40.2%増）となりました。

[ソリューション事業]

不採算案件の絞り込みで通販代行サービスの売上が減少したことで、売上高は4,253百万円（同2.8%減）となりました。

[ファイナンス事業]

国内消費者金融事業の貸付金残高を伸ばしたことにより、売上高は2,853百万円（同8.9%増）となりました。

[プロパティ事業]

不動産販売に加え、ホテル事業が売上に寄与したことで、売上高は4,400百万円（同104.2%増）となりました。

[その他の事業]

卸売事業などで売上を伸ばし、売上高は3,272百万円（同7.7%増）となりました。

## 事業別売上高

(単位：百万円)

| 事業区分      | 第 39 期<br>(平成26年 4 月 1 日～<br>平成27年 3 月31日) |       | 第 40 期<br>(平成27年 4 月 1 日～<br>平成28年 3 月31日) |       | 増 減    |       |
|-----------|--------------------------------------------|-------|--------------------------------------------|-------|--------|-------|
|           | 売上高                                        | 構成比   | 売上高                                        | 構成比   | 金額     | 増減率   |
| 総合通販事業    | 69,117                                     | 57.3% | 69,831                                     | 53.0% | 714    | 1.0%  |
| 専門通販事業    | 32,028                                     | 26.5  | 36,823                                     | 28.0  | 4,794  | 15.0  |
| 店舗販売事業    | 7,352                                      | 6.1   | 10,307                                     | 7.8   | 2,955  | 40.2  |
| ソリューション事業 | 4,374                                      | 3.6   | 4,253                                      | 3.2   | △121   | △2.8  |
| ファイナンス事業  | 2,621                                      | 2.2   | 2,853                                      | 2.2   | 232    | 8.9   |
| プロパティ事業   | 2,155                                      | 1.8   | 4,400                                      | 3.3   | 2,245  | 104.2 |
| その他の事業    | 3,039                                      | 2.5   | 3,272                                      | 2.5   | 233    | 7.7   |
| 合 計       | 120,689                                    | 100.0 | 131,742                                    | 100.0 | 11,053 | 9.2   |

(注) 1. 事業区分は企業集団内の事業展開を基準として区分しております。

2. 事業の主な内容

- |               |                                                 |
|---------------|-------------------------------------------------|
| (1) 総合通販事業    | 衣料品・生活雑貨・家具等生活関連商品の販売及び関連事業                     |
| (2) 専門通販事業    | 食料品・化粧品・健康食品等の単品販売や、特定のお客様を対象として専門的に商品を販売している事業 |
| (3) 店舗販売事業    | 衣料品・和装関連商品等の店舗販売事業                              |
| (4) ソリューション事業 | 受託業務事業（封入・同送サービス事業を含む）                          |
| (5) ファイナンス事業  | 消費者金融事業並びに担保金融事業                                |
| (6) プロパティ事業   | 不動産賃貸事業、不動産再生・開発事業、ホテル運営事業                      |
| (7) その他の事業    | 卸売事業、ゴルフ場運営事業等                                  |

## ② 設備投資の状況

当連結会計年度中に実施いたしました設備投資の総額は、リースを含めて7,366百万円であり、その主なものは、プロパティ事業における不動産開発及び不動産取得に伴う投資5,324百万円、基幹システム構築に伴う投資887百万円、店舗事業における出店等に伴う投資469百万円であります。

## ③ 資金調達の状況

当連結会計年度におきまして、当社は主要取引金融機関と総額13,410百万円の当座貸越契約を締結しております。また、当連結会計年度末における借入実行残高は5,050百万円であります。

## (2) 財産及び損益の状況

(単位：百万円)

| 区分                  | 第 37 期<br>(平成24年4月1日)<br>～平成25年3月31日) | 第 38 期<br>(平成25年4月1日)<br>～平成26年3月31日) | 第 39 期<br>(平成26年4月1日)<br>～平成27年3月31日) | 第 40 期<br>(平成27年4月1日)<br>～平成28年3月31日) |
|---------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高                 | 117,884                               | 125,412                               | 120,689                               | 131,742                               |
| 経常利益                | 8,910                                 | 10,431                                | 10,052                                | 7,105                                 |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 | 5,870                                 | 7,013                                 | 6,394                                 | 3,544                                 |
| 1株当たり当期純利益          | 60.18円                                | 72.12円                                | 65.77円                                | 36.45円                                |
| 総資産                 | 115,079                               | 130,648                               | 152,224                               | 161,055                               |
| 純資産                 | 66,612                                | 73,480                                | 79,510                                | 80,646                                |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により算出しております。
2. 当社は平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第37期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社との関係

該当事項はありません。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会 社 名                  | 資 本 金      | 当社の出資比率 | 主要な事業内容            |
|------------------------|------------|---------|--------------------|
| ㈱ リ フ レ                | 10百万円      | 100%    | 専門通販事業             |
| ㈱ オ ー ジ オ              | 100百万円     | 100%    | 専門通販事業             |
| フ レ ン ド リ ー ㈱          | 50百万円      | 100%    | 卸売事業               |
| ㈱ サ ン ス テ ー ジ          | 10百万円      | 100%    | 消費者金融事業、<br>担保金融事業 |
| ㈱ B A N K A N わ も の や  | 100百万円     | 100%    | 和装関連商品販売事業         |
| ㈱ エ ル ド ラ ド            | 10百万円      | 100%    | ゴルフ場運営事業           |
| ㈱ ナ ー ス リ ー            | 34百万円      | 100%    | 専門通販事業             |
| ㈱ テ キ サ ス              | 10百万円      | 100%    | 不動産売買・賃貸事業         |
| ㈱ ア ン フ ァ ミ エ          | 5百万円       | 100%    | 専門通販事業             |
| ㈱ ベ ス ト サ ン ク ス        | 50百万円      | 100%    | 専門通販事業             |
| ネ コ マ ホ テ ル ㈱          | 10百万円      | ※100%   | ホテル運営事業            |
| INYA CAPITAL PTE. LTD. | 11,002千米ドル | 82%     | 不動産開発事業            |
| 丸 長 ㈱                  | 80百万円      | 100%    | 専門通販事業             |

- (注) 1. 株式会社BANKANと株式会社わものやは、平成27年7月1日付にて合併し、社名を株式会社BANKANわものやといたしました。  
2. ※印は間接所有を含む比率であります。

#### ③ 重要な企業結合等の状況

該当事項はありません。

#### ④ 事業年度末日における特定完全子会社の状況

該当事項はありません。

### (4) 対処すべき課題

当社グループは、環境の変化に対応しながら、更なる成長を実現すべく経営基盤を強化して参ります。

- ① 総合通販事業は、ネットを強化することに加え、カタログ・ネット・店舗のシナジー効果を図ることで、成長を実現して参ります。

- ② 専門通販事業は、新商品の開発を強化すると共に、サービスレベルを向上させることでリピート顧客を増やして参ります。
- ③ 店舗販売事業は、出店を加速化し、店舗ネットワークを構築して参ります。
- ④ ソリューション事業は、封入・同送サービスの新規顧客拡大と通販代行サービスの収益力強化を図って参ります。
- ⑤ ファイナンス事業は、国内消費者金融事業を主体として残高を伸ばして参ります。
- ⑥ プロパティ事業は、国内外の収益性の高い物件に投資することで、リスク分散を図ると同時に、収益性も確保して参ります。また、訪日外国人客の増加に対応するため、ホテル事業にもチャレンジして参ります。

(5) 主要な事業内容（平成28年3月31日現在）

当社グループは、当社と連結子会社37社により構成されており、経営資源の有効活用によって様々なニーズに応えたサービスを展開する通販総合商社を目指して展開しております。当社グループは「総合通販事業」、「専門通販事業」、「店舗販売事業」、「ソリューション事業」、「ファイナンス事業」、「プロパティ事業」、「その他の事業」の7つを報告セグメントとしております。

事業内容及び当社と子会社の事業に係る位置付けは次のとおりであります。

| 区 分               | 主 な 事 業 内 容                 | 会 社 名                                                 |
|-------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 総 合 通 販 事 業       | 衣料品・生活雑貨・家具等生活関連商品の販売及び関連事業 | 当社                                                    |
| 専 門 通 販 事 業       | 食料品・化粧品・健康食品等の単品を販売している事業   | 当社、(株)リフレ、(株)オージオ、(株)ナースリー、(株)アンファミエ、(株)ベストサンクス、丸長(株) |
| 店 舗 販 売 事 業       | 衣料品・和装関連商品等の店舗販売事業          | 当社、(株)BANKANわものや                                      |
| ソ リ ュ ー シ ョ ン 事 業 | 受託業務事業（封入・同送サービス事業を含む）      | 当社、(株)アンファミエ                                          |
| フ ァ イ ナ ン ス 事 業   | 消費者金融事業、担保金融事業              | (株)サンステージ                                             |
| プ ロ パ テ ィ 事 業     | 不動産賃貸事業、不動産再生・開発事業、ホテル運営事業  | 当社、(株)テキサス、(株)オージオ、ネコマホテル(株)、INYA CAPITAL PTE. LTD.   |
| そ の 他 の 事 業       | 卸売事業、ゴルフ場運営事業等              | 当社、フレンドリー(株)、(株)エルドラド                                 |

(注) 封入・同送サービス事業とは、他社のダイレクトメール等を当社の発送する商品又はカタログ等と同梱する事業であります。

## (6) 主要な営業所及び工場（平成28年3月31日現在）

|                         |             |                          |
|-------------------------|-------------|--------------------------|
| 当 社                     | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
|                         | 物 流 セ ン タ ー | 埼玉県比企郡吉見町、栃木県鹿沼市         |
|                         | 営 業 所       | 埼玉県上尾市、埼玉県鴻巣市、<br>東京都中央区 |
| (株) リ フ レ               | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) オ ー ジ オ             | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| フ レ ン ド リ ー (株)         | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) サ ン ス テ ー ジ         | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) B A N K A N わ も の や | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) エ ル ド ラ ド           | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) ナ ー ス リ ー           | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) テ キ サ ス             | 本 社         | 埼玉県上尾市                   |
| (株) ア ン フ ァ ミ エ         | 本 社         | 大阪市西区                    |
| (株) ベ ス ト サ ン ク ス       | 本 社         | 大阪市西区                    |
| ネ コ マ ホ テ ル (株)         | 本 社         | 福島県耶麻郡北塩原村               |
| INYA CAPITAL PTE. LTD.  | 本 社         | シンガポール                   |
| 丸 長 (株)                 | 本 社         | 静岡県三島市                   |

(7) 使用人の状況（平成28年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

| 事業区分      | 使用人数         | 前連結会計年度末比増減 |
|-----------|--------------|-------------|
| 総合通販事業    | 419(1,057)名  | △15(△45)名   |
| 専門通販事業    | 227(620)     | 26(45)      |
| 店舗販売事業    | 357(385)     | △47(225)    |
| ソリューション事業 | 22(73)       | △18(△70)    |
| ファイナンス事業  | 41(40)       | 3(14)       |
| プロパティ事業   | 86(14)       | 5(2)        |
| その他の事業    | 75(58)       | △2(12)      |
| 全社（共通）    | 150(41)      | △5(△6)      |
| 合計        | 1,377(2,288) | △53(177)    |

(注) 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数        | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|-------------|-----------|-------|--------|
| 708(1,424)名 | △34(△94)名 | 34.7歳 | 9.1年   |

(注) 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況（平成28年3月31日現在）

(単位：百万円)

| 借入先        | 借入額    |
|------------|--------|
| ㈱三井住友銀行    | 17,393 |
| ㈱みずほ銀行     | 9,550  |
| ㈱埼玉りそな銀行   | 5,555  |
| ㈱三菱東京UFJ銀行 | 4,605  |
| ㈱足利銀行      | 2,901  |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（平成28年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 260,000,000株
- ② 発行済株式の総数 113,184,548株
- ③ 株主数 7,983名
- ④ 大株主（上位10名）

| 株主名                                                                           | 持株数      | 持株比率  |
|-------------------------------------------------------------------------------|----------|-------|
| ㈱ フレンドステージ                                                                    | 33,510千株 | 34.4% |
| 安野清                                                                           | 10,934   | 11.2  |
| BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND<br>(PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) | 9,330    | 9.6   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(信託口)                                                        | 4,021    | 4.1   |
| 安野公                                                                           | 3,324    | 3.4   |
| ㈱ 三井住友銀行                                                                      | 2,246    | 2.3   |
| 野村信託銀行㈱<br>(退職給付信託三菱東京UFJ銀行口)                                                 | 1,968    | 2.0   |
| ベルーナ共栄会                                                                       | 1,958    | 2.0   |
| みずほ信託銀行㈱ 退職給付信託 みずほ銀行口<br>再信託受託者 資産管理サービス信託銀行㈱                                | 1,546    | 1.5   |
| 日本マスタートラスト信託銀行㈱(信託口)                                                          | 1,397    | 1.4   |

(注) 持株比率は自己株式(15,947,724株)を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

- ① 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- ② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- ③ その他新株予約権に関する事項  
該当事項はありません。

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役の状況（平成28年3月31日現在）

| 会社における地位   | 氏 名       | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                            |
|------------|-----------|----------------------------------------------------|
| 代表取締役社長    | 安 野 清     | (株)フレンドステージ代表取締役                                   |
| 取 締 役      | 安 野 雄 一 朗 | 常務執行役員マーケティング本部長<br>兼マーケティング本部マーケティング室部長           |
| 取 締 役      | 宍 戸 順 子   | 執行役員社長室長兼企画担当<br>(株)エルドラド代表取締役                     |
| 取 締 役      | 島 野 武 夫   | 執行役員経営企画室長<br>フレンドリー(株)代表取締役                       |
| 取 締 役      | 生 川 雅 一   | (株)ナースリー代表取締役<br>(株)アンファミエ代表取締役<br>(株)ベストサンクス代表取締役 |
| 取 締 役      | 下 川 英 士   | 執行役員店舗事業本部長<br>(株)ペルーナユニテッド代表取締役                   |
| 取 締 役      | 松 田 智 博   | 執行役員管理本部長                                          |
| 取締役(監査等委員) | 萩 原 康 雄   |                                                    |
| 取締役(監査等委員) | 渡 部 行 光   | 公認会計士・税理士                                          |
| 取締役(監査等委員) | 山 縣 秀 樹   | 弁護士                                                |

- (注) 1. 取締役（監査等委員）渡部行光及び山縣秀樹の両氏は、社外取締役であります。  
 なお、当社は、取締役（監査等委員）渡部行光及び山縣秀樹の両氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
2. 取締役萩原康雄氏は、常勤の監査等委員であります。常勤の監査等委員を選定している理由は、社内事情に精通した者が、重要な会議等への出席や、会計監査人及び内部監査室等との連携を深化させることにより得られた情報をもとに、監査等委員会による監査の実効性を高めるためであります。
3. 取締役（監査等委員）渡部行光氏は、公認会計士、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 取締役（監査等委員）山縣秀樹氏は、弁護士の資格を有しており、企業法務に関する相当程度の知見を有しております。
5. 監査役河原塚隆史、監査役（社外監査役）中村勲の両氏は、平成27年6月26日開催の第39回定時株主総会最終の時をもって、任期満了により退任いたしました。

② 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分                     | 支給人員     | 支給額      |
|-------------------------|----------|----------|
| 取締役(監査等委員を除く)           | 7名       | 97百万円    |
| 取締役(監査等委員)<br>(うち社外取締役) | 3<br>(2) | 8<br>(3) |
| 監査役<br>(うち社外監査役)        | 3<br>(2) | 2<br>(0) |
| 合 計                     | 13       | 108      |

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役(監査等委員を除く)の報酬限度額は、平成27年6月26日開催の第39回定時株主総会において年額200百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
3. 取締役(監査等委員)の報酬限度額は、平成27年6月26日開催の第39回定時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、平成5年6月30日開催の第17回定時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいております。
5. 支給額には、事業年度中に役員退職慰労引当金の繰入額として取締役に対し9百万円、監査等委員に對し0百万円を含めております。
6. 渡部行光氏は、第39回定時株主総会において、監査役の任期が満了し、取締役(監査等委員)に就任したため、人員及び支給額について監査役期間は監査役(社外監査役)に、取締役(監査等委員)期間は取締役(監査等委員、社外取締役)に含めて記載しております。
7. 上記報酬等の額のほか、平成27年6月26日開催の第39回定時株主総会決議に基づき、退職慰労金を退任監査役2名に対して4百万円(うち社外監査役1名 3百万円)支給しております。なお、この金額には、当該事業年度及び過年度の事業報告において開示した役員退職慰労引当金の繰入額1百万円が含まれております。

### ③ 社外役員に関する事項

#### イ. 重要な兼職先と当社との関係

該当事項はありません。

#### ロ. 当事業年度における主な活動状況

| 会社における地位         | 氏 名     | 主 な 活 動 状 況                                                                                            |
|------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取 締 役<br>(監査等委員) | 渡 部 行 光 | 当事業年度に開催された取締役会には、8回中8回(100%)、また、監査等委員会には、5回中5回(100%)出席し、主に公認会計士の経験及び知見に基づく、企業会計の専門的見地から助言・提言を行っております。 |
| 取 締 役<br>(監査等委員) | 山 縣 秀 樹 | 当事業年度に開催された取締役会には、8回中7回(87.5%)、また、監査等委員会には、5回中5回(100%)出席し、主に弁護士の経験及び知見に基づく意見を述べております。                  |

- (注) 1. 取締役会及び監査等委員会の開催回数は、当事業年度のうち、監査等委員である取締役に就任後の回数であります。
2. 渡部行光氏は、上記のほか監査役として、当事業年度の平成27年6月26日までに開催された取締役会に、13回中13回(100%)及び監査役会に、1回中1回(100%)出席しております。
3. 中村勲氏は、監査役として平成27年6月26日に退任するまでに開催された取締役会に、13回中13回(100%)、監査役会に、1回中1回(100%)出席し、主に弁護士の経験及び知見に基づく意見を述べております。

#### ハ. 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役である渡部行光、山縣秀樹の両氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める額を損害賠償責任の限度としております。

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称 新日本有限責任監査法人

② 報酬等の額

|                                    | 支 払 額 |
|------------------------------------|-------|
| 1. 公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額         | 51百万円 |
| 2. 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 51百万円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておりませんので、上記1.の金額には、これらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務執行状況および報酬見積りの算出根拠などが適切かどうかについて検討した結果、会計監査人の報酬等の額につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

③ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項に定められている解任事由に該当すると認められる場合には、同条の規定に従い、監査等委員全員の同意によって、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

④ 過去2年間に業務の停止処分を受けた者に関する事項

当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人は、平成27年12月22日、金融庁から、契約の新規の締結に関する業務の停止3ヶ月（平成28年1月1日から同年3月31日まで）の処分を受けました。当社は、同監査法人の再発防止に向けた改善への取り組み及び当社に対する監査業務は適正かつ厳格に遂行されていることを評価し、今後も同監査法人による継続的な監査を行うことが最善との判断に至っております。

⑤ 当社子会社の会計監査人の状況

当社の重要な海外子会社は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けております。

## (5) 業務の適正を確保するための体制及び運用状況

(業務の適正を確保するための体制)

当社は、取締役会において、「内部統制体制の整備に関する方針」を決議しており、その内容は以下のとおりであります。

＜内部統制体制に関する基本的な考え方＞

当社は、適正な業務執行のための体制を整備し、運用していくことが重要な経営の責務であると認識し、内部統制システムを構築していく所存であります。

＜内部統制体制の整備状況＞

① 当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ. 法務部を中心に全体的なコンプライアンスの推進・教育・研修の実施を行い、すべての取締役及び使用人がコンプライアンスの精神・考え方を充分理解し、透明な企業風土を構築する。

ロ. 法令違反等の不正行為を未然防止、早期発見・早期解決のために内部通報制度の活用を促進する。

ハ. 内部監査を通じて、業務実施状況の実態を把握し、法令・定款及び社内規程に準拠して適正・妥当かつ合理的に行われているか、また、会社の制度・組織・諸規程が適正・妥当であるかを公正不偏に調査・検証する。

② 当社及び子会社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

イ. 取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や、各取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等、取締役の職務の執行に係る情報を適正に記録し、法令及び文書取扱規程などに基づき、定められた期間保存する。

ロ. 個人情報情報の管理については、プライバシーマークの取得の機会を当社及び主要な子会社で活用し、ID・パスワード導入・アクセス制御の設定・アクセスログの管理など情報システムを構築し、強化を図る。帳票の廃棄処理についても大型シュレッダーを設置し、個人情報情報の流出を回避すると共に、顧客の信頼を得られる体制を構築する。

③ 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

様々な損失の危険に対して、危険の大小や発生可能性に応じ、事前に適切な対応策を準備することにより、損失の危険を最小限にすべく対応を図る。下記のリスクにおける事業の継続を確保するため、体制を整備する。

イ. 火災などの災害により重大な損失を被るリスク

ロ. 取締役及び使用人の不適正な業務執行リスク

ハ. 基幹コンピュータシステムが正常に機能しないことによるリスク

- ④ 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- イ. 経営計画を達成するため、取締役の担当業務を明確にし、職務の執行の効率化を図る。
  - ロ. 重要案件については、取締役会の付議前に部門毎のミーティングの積極活用によって、充分討議を重ね、取締役会に付議し、意思決定を行う。
- ⑤ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 「役職員行動規範」を策定、周知徹底しており、遵守状況についてモニタリングを行う。
  - ロ. 規程に基づき職務権限の割り当て及び人員及びプロセスの業務分掌を合理的に行う。
  - ハ. 各子会社の状況については、会議規程に基づき開催する各経営会議で報告を行うほか、財務・内部統制、リスクの状況について当社の取締役会に報告する。
  - ニ. 適切な経営管理を行うと共に、企業経営及び日常の業務に関して、必要に応じて外部の法律事務所による専門的見地からアドバイスを受ける体制を整備する。
- ⑥ 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項
- 監査等委員会より、その職務を補助すべき使用人を置くことを求められた場合には、監査等委員会と協議の上、適切な人材を配置し、取締役（監査等委員であるものを除く。）からの独立性を確保するものとする。
- ⑦ 当社及び子会社の取締役並びに使用人が監査等委員会への報告に関する体制
- イ. 監査等委員は、取締役会のほか、必要に応じ社内会議に出席し、重要な報告を受けることができる。
  - ロ. 当社又は子会社の取締役並びに使用人は、当社又は子会社に著しい損害を及ぼす恐れがある事実及び法令・定款に違反する重大な事実を発見した場合は、速やかに監査等委員会に報告する。
  - ハ. 内部通報制度による通報情報や不正事故等の事故情報についても、当該担当者が速やかに監査等委員会へ報告する。

- ⑧ 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
当社及び子会社は、前号の報告又は内部通報をした者に対して、当該報告又は当該内部通報を理由として不利な取扱いを行わない。
- ⑨ 監査等委員会の職務の執行について生じる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査等委員会の職務の執行について生じた費用等は、職務の執行に必要でないとして証明できる場合を除き、速やかに処理を行う。
- ⑩ その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
イ. 代表取締役と監査等委員会は、相互の意思疎通を図るため、随時会合していく。  
ロ. 監査等委員会は、会計監査人及び内部監査部門と意見交換を密にして連携を保ち、各監査業務が効率的かつ実効的に行われるように相互協力する。

<反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方>

当社及び子会社では、反社会的勢力排除に向けた取組みについて「役職員行動規範」において以下のとおり宣言し、これを当社グループ全使用人に周知徹底しております。社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力からの関与は断固として拒絶し、これらの活動を助長する行為は一切行わず毅然とした態度で対処する。

<反社会的勢力排除に向けた整備状況>

- ① 当社及び子会社では反社会的勢力による不当要求に対しては、当社法務部で対応することとし、法務部内に不当要求責任者を設置しております。
- ② 同責任者を中心に警察署・埼玉企業暴力防止対策協議会・顧問弁護士等との緊密な意思疎通と連携をもとに反社会的勢力の情報収集、同勢力の排除を進めるとともに、その被害防止を図っております。
- ③ 当社及び子会社では「役職員行動規範」を携帯用カードにして全使用人に配布するとともに研修等を通じて内容の徹底を図っております。

(業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要)

① コンプライアンス及びリスク管理

- ・当社は、コンプライアンス担当取締役を委員長とし、顧問弁護士を含む6名の委員で構成されたコンプライアンス委員会が設置され、毎月1回開催しております。同委員会では、報告された事故情報の共有及び再発防止策の精査など、全般的なリスク管理やコンプライアンス上の課題について協議しております。
- ・当社及び子会社は、健全な取引を阻害する違法行為や不正行為の防止・早期発見のために、内部通報制度を導入しております。同制度に外部窓口（顧問弁護士）を設け、匿名性を担保しております。通報された内容に応じて、コンプライアンス委員会への上申等を行い、早期解決に取り組んでおります。
- ・当社及び子会社の使用人に対して、法務部及び関連委員会の主催による外部講師を招いてのコンプライアンスに関する研修を当事業年度に8回実施いたしました。

② 職務執行の適正及び効率性

- ・第39回定時株主総会において、取締役会の監査・監督強化によるコーポレートガバナンスの充実を目的に監査等委員会設置会社への定款変更を決議し、平成27年6月26日より移行いたしました。
- ・取締役会は、当事業年度に21回開催し、経営方針及び経営戦略に係る重要事項の決定並びに各取締役の業務執行状況の監督を行いました。

③ 監査等委員会に関する運用状況

- ・監査等委員は、取締役会や重要な会議への出席を通じ、取締役及び執行役員等から業務執行の報告を受け、職務執行の適正及び効率性を監督いたしました。
- ・監査等委員会は、当事業年度に5回開催し、内部監査部門が行った監査に関する報告を受けるほか、内部監査部門と日常的にもコミュニケーションを図り、当社及び子会社の効果的な監査が実施可能な体制を構築しております。

④ 内部監査に関する運用状況

- ・内部監査部門は、年間の監査計画に基づき当社及び子会社の内部監査を実施いたしました。特に新たに取得した子会社の監査体制を強化いたしました。
- ・内部監査部門は、監査結果を、取締役会及び監査等委員会に報告しております。

# 連結貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 資 産 の 部            |                | 負 債 の 部                |                |
|--------------------|----------------|------------------------|----------------|
| 科 目                | 金 額            | 科 目                    | 金 額            |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>74,189</b>  | <b>流 動 負 債</b>         | <b>37,428</b>  |
| 現金及び預金             | 19,478         | 支払手形及び買掛金              | 15,633         |
| 受取手形及び売掛金          | 9,279          | 短期借入金                  | 8,109          |
| 営業貸付金              | 18,082         | 未払費用                   | 7,880          |
| 有価証券               | 346            | リース債務                  | 680            |
| たな卸資産              | 16,830         | 未払法人税等                 | 951            |
| 販売用不動産             | 999            | 賞与引当金                  | 569            |
| 仕掛販売用不動産           | 3,173          | 返品調整引当金                | 67             |
| 繰延税金資産             | 684            | ポイント引当金                | 599            |
| その他                | 6,417          | その他                    | 2,936          |
| 貸倒引当金              | △1,104         | <b>固 定 負 債</b>         | <b>42,981</b>  |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>86,866</b>  | 長期借入金                  | 38,359         |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>59,459</b>  | 利息返還損失引当金              | 1,048          |
| 建物及び構築物            | 21,341         | リース債務                  | 1,316          |
| 機械装置及び運搬具          | 902            | 退職給付に係る負債              | 65             |
| 器具及び備品             | 378            | 役員退職慰労引当金              | 252            |
| 土地                 | 35,400         | 資産除去債務                 | 505            |
| リース資産              | 366            | その他                    | 1,433          |
| 建設仮勘定              | 1,069          | <b>負 債 合 計</b>         | <b>80,409</b>  |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>8,342</b>   | <b>純 資 産 の 部</b>       |                |
| ソフトウェア             | 985            | <b>株 主 資 本</b>         | <b>80,382</b>  |
| のれん                | 3,231          | 資本金                    | 10,607         |
| リース資産              | 1,612          | 資本剰余金                  | 11,003         |
| その他                | 2,513          | 利益剰余金                  | 68,449         |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>19,065</b>  | 自己株式                   | △9,677         |
| 投資有価証券             | 14,561         | その他の包括利益累計額            | △204           |
| 長期貸付金              | 1,580          | その他有価証券評価差額金           | 584            |
| 破産更生債権等            | 239            | 為替換算調整勘定               | △811           |
| 繰延税金資産             | 1,007          | 退職給付に係る調整累計額           | 22             |
| その他                | 1,952          | <b>非 支 配 株 主 持 分</b>   | <b>468</b>     |
| 貸倒引当金              | △276           | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>80,646</b>  |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>161,055</b> | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>161,055</b> |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額   | 金 額     |
|-----------------|-------|---------|
| 売上高             |       | 131,742 |
| 売上原価            |       | 59,242  |
| 売上総利益           |       | 72,500  |
| 販売費及び一般管理費      |       | 64,134  |
| 営業利益            |       | 8,366   |
| 営業外収益           |       |         |
| 受取利息            | 330   |         |
| 受取配当金           | 310   |         |
| 助成金の収入          | 211   |         |
| その他             | 722   | 1,574   |
| 営業外費用           |       |         |
| 支払利息            | 129   |         |
| 支払手数料           | 208   |         |
| デリバティブ評価損       | 1,942 |         |
| 減価償却費           | 136   |         |
| 店舗閉鎖損失          | 65    |         |
| その他             | 353   | 2,835   |
| 経常利益            |       | 7,105   |
| 特別利益            |       |         |
| 投資有価証券売却益       | 107   | 107     |
| 特別損失            |       |         |
| 固定資産除却損         | 312   |         |
| 投資有価証券評価損       | 300   |         |
| 減損損失            | 14    |         |
| 貸倒引当金繰入額        | 560   | 1,187   |
| 税金等調整前当期純利益     |       | 6,026   |
| 法人税、住民税及び事業税    |       | 2,446   |
| 法人税等調整額         |       | 64      |
| 当期純利益           |       | 3,514   |
| 非支配株主に帰属する当期純損失 |       | △29     |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |       | 3,544   |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                           | 株 主 資 本 |           |           |         |             |
|---------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                           | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 平成27年4月1日 残高              | 10,607  | 11,003    | 66,120    | △9,676  | 78,054      |
| 連結会計年度中の変動額               |         |           |           |         |             |
| 剰余金の配当                    |         |           | △1,215    |         | △1,215      |
| 親会社株主に帰属する当期純利益           |         |           | 3,544     |         | 3,544       |
| 自己株式の取得                   |         |           |           | △0      | △0          |
| 自己株式の処分                   |         | 0         |           | 0       | 0           |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) |         |           |           |         |             |
| 連結会計年度中の変動額合計             | -       | 0         | 2,328     | △0      | 2,328       |
| 平成28年3月31日 残高             | 10,607  | 11,003    | 68,449    | △9,677  | 80,382      |

|                           | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |                 |                         |                           | 非 支 配 株 主 持 | 純 資 産 合 計 |
|---------------------------|-----------------------|-----------------|-------------------------|---------------------------|-------------|-----------|
|                           | その他有価証券評価差額金          | 為 替 換 算 調 整 勘 定 | 退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額 | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計 |             |           |
| 平成27年4月1日 残高              | 1,313                 | △183            | 61                      | 1,191                     | 264         | 79,510    |
| 連結会計年度中の変動額               |                       |                 |                         |                           |             |           |
| 剰余金の配当                    |                       |                 |                         |                           |             | △1,215    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益           |                       |                 |                         |                           |             | 3,544     |
| 自己株式の取得                   |                       |                 |                         |                           |             | △0        |
| 自己株式の処分                   |                       |                 |                         |                           |             | 0         |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | △729                  | △628            | △39                     | △1,396                    | 204         | △1,191    |
| 連結会計年度中の変動額合計             | △729                  | △628            | △39                     | △1,396                    | 204         | 1,136     |
| 平成28年3月31日 残高             | 584                   | △811            | 22                      | △204                      | 468         | 80,646    |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の状況

|              |                                                                                                                                                                                        |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・連結子会社の数     | 37社                                                                                                                                                                                    |
| ・主要な連結子会社の名称 | 株式会社リフレ<br>株式会社オージオ<br>フレンドリー株式会社<br>株式会社サンステージ<br>株式会社BANKANわものや<br>株式会社エルドラド<br>株式会社ナースリー<br>株式会社テキサス<br>株式会社アンファミエ<br>株式会社ベストサンクス<br>ネコマホテル株式会社<br>INYA CAPITAL PTE. LTD.<br>丸長株式会社 |

##### ② 主要な非連結子会社の状況

|               |                                                                                                       |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・主要な非連結子会社の名称 | 株式会社ヒューマンリソースマネジメント他                                                                                  |
| ・連結の範囲から除いた理由 | 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外しております。 |

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法を適用した非連結子会社又は関連会社の状況

|              |                       |
|--------------|-----------------------|
| ・持分法適用の関連会社数 | 1社                    |
| ・主要な会社等の名称   | 株式会社バルーナ・ジーエフ・ロジスティクス |

② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・ 主要な会社等の名称 株式会社ヒューマンリソースマネジメント他
- ・ 持分法を適用しない理由 持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に与える影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結の範囲の変更に関する事項

当連結会計年度より、新たに設立した㈱ビッグベルトレーディング、MIRIANDHOO MALDIVES RESORTS PVT.LTD.、VAUXHALL STREET TOWERS PVT.LTD.、MADISON GRANBELL LLC、ASIA LANDS DEVELOPMENT PVT.LTD.、UNION PLACE APARTMENTS PVT.LTD.、MARINE DRIVE HOTELS PVT.LTD.、MADISON GRANBELL 2 LLC、BELLUNA CORONA LLC、GRANBELL CORONA LLC、MADISON GRANBELL 3 LLC、GRANBELL EUCLID LLCを、また、株式を取得した丸長㈱を連結の範囲に含めております。

(4) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、BELL-STAGE CO.,LTD.、BELLUNA CAPITAL, INC.、MADISON GRANBELL LLC、MADISON GRANBELL 2 LLC、BELLUNA CORONA LLC、GRANBELL CORONA LLC、MADISON GRANBELL 3 LLC、GRANBELL EUCLID LLCの決算日は12月31日ではありますが、連結決算日との差は3ヶ月以内であるため、当該連結子会社の決算日に係る計算書類を基礎として連結を行っております。

ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っておりません。

(5) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他有価証券

・ 時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

・ 時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びこれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額の損益を取り込む方法によっております。

ロ. デリバティブ取引により生じる正味の債権（及び債務）

時価法

ハ. たな卸資産

・ 商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

・ 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

・ 販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

・ 仕掛販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

## ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

### イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用し、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、当社及び国内連結子会社は、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）は定額法によるっております。

### ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）

- ・ 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によるおります。
- ・ その他の無形固定資産 定額法によるおります。

### ハ. リース資産(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によるしております。

## ③ 重要な引当金の計上基準

### イ. 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### ロ. 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

### ハ. 返品調整引当金

当連結会計年度末日後の返品による損失に備えるため、過去の返品実績率等により、返品見込額に対する売上総利益相当額を計上しております。

### ニ. ポイント引当金

将来のポイント使用による費用に備えるため、過去の使用実績率に基づき、当連結会計年度末において利用が見込まれる額を計上しております。

### ホ. 利息返還損失引当金

利息制限法の上限金利を超過する貸付金利息部分の顧客からの返還請求に備えるため、当連結会計年度末における将来の返還請求発生見込額を計上しております。

### ヘ. 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

④ 退職給付に係る会計処理の方法

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生連結会計年度から費用処理しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生連結会計年度から費用処理しております。

ハ. 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ 重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たしている金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理を採用しております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ・金利キャップ  
ヘッジ対象・・・借入金利

ハ. ヘッジ方針

金利変動リスクの低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップ及び金利キャップについては、有効性の判定を省略しております。

⑥ のれんの償却方法に関する事項

のれんの償却については、4年～10年の定額法により償却を行っております。

⑦ その他連結計算書類作成のための重要な事項

イ. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ロ. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(6) 会計方針の変更

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を、当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結計算書類に反映させる方法に変更いたします。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58－2項（4）、連結会計基準第44－5項（4）及び事業分離等会計基準第57－4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ39百万円減少しております。

## 2. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産

|         |           |
|---------|-----------|
| 建物及び構築物 | 6,761百万円  |
| 土地      | 12,618百万円 |
| 合計      | 19,380百万円 |

上記に対する債務は次のとおりであります。

|       |           |
|-------|-----------|
| 短期借入金 | 1,798百万円  |
| 長期借入金 | 33,353百万円 |
| 合計    | 35,151百万円 |

### (2) 有形固定資産の減価償却累計額

16,639百万円

減価償却累計額には、減損損失累計額を含めております。

### (3) 投資有価証券

非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

投資有価証券（株式） 605百万円

### (4) 財務制限条項

連結借入金残高のうち、25,651百万円の借入契約に、前連結会計年度末の純資産額（連結）の75%以上を維持する等の財務制限条項が付されております。

### (5) 連帯保証債務

金融機関からの借入金に対して、次のとおり連帯保証を行っております。

（株守札） 254百万円

### 3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末株式数 |
|-------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 普通株式  | 113,184千株    | －千株          | －千株          | 113,184千株   |

#### (2) 自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末株式数 |
|-------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 普通株式  | 15,946千株     | 0千株          | 0千株          | 15,947千株    |

(注) 1. 普通株式の自己株式数の増加0千株は、単元未満株式買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式数の減少0千株は、単元未満株式の買増し請求によるものであります。

#### (3) 剰余金の配当に関する事項

##### ① 配当金支払額等

イ. 平成27年6月26日開催の第39回定時株主総会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 607百万円
- ・1株当たり配当金額 6円25銭
- ・基準日 平成27年3月31日
- ・効力発生日 平成27年6月29日

ロ. 平成27年10月29日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 607百万円
- ・1株当たり配当金額 6円25銭
- ・基準日 平成27年9月30日
- ・効力発生日 平成27年12月4日

##### ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成28年6月28日開催の第40回定時株主総会において次のとおり付議いたします。

- ・配当の原資 利益剰余金
- ・配当金の総額 607百万円
- ・1株当たり配当金額 6円25銭
- ・基準日 平成28年3月31日
- ・効力発生日 平成28年6月29日

#### 4. 金融商品に関する注記

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

###### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に照らして必要な資金を主に銀行借入により調達し、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブ取引は、主に外貨建営業債務に係る為替変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

###### ② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、営業貸付金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、審査基準に基づき与信管理を行うとともに、期日管理及び残高管理もあわせて行っております。また、有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的の時価を把握して、代表取締役へ報告しております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払費用は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。また、その一部は輸入に伴う外貨建のものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引で当該リスクの一部をヘッジしております。借入金には主に事業計画に必要な資金の調達であります。借入金については金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引については、為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引、通貨スワップ取引を、金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引を行っております。また、当社はデリバティブ内包型預金を保有しております。なお、デリバティブ取引については、取引権限や限度額を定めたデリバティブ取引管理規程に基づき行い、定期的に取り引状況、残高等を把握、確認しております。

###### ③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注2) 参照）。

(単位：百万円)

|                               | 連結貸借対照表<br>計上額(*) | 時 価(*)   | 差 額 |
|-------------------------------|-------------------|----------|-----|
| (1) 現金及び預金                    | 19,478            | 19,478   | —   |
| (2) 受取手形及び売掛金<br>貸倒引当金(※1)    | 9,279<br>△358     |          |     |
| 小計                            | 8,921             | 8,921    | —   |
| (3) 営業貸付金<br>貸倒引当金(※1)        | 18,082<br>△736    |          |     |
| 小計                            | 17,346            | 17,586   | 240 |
| (4) 有価証券及び投資有価証券<br>満期保有目的の債券 | 329               | 361      | 32  |
| その他有価証券                       | 9,409             | 9,409    | —   |
| (5) 支払手形及び買掛金                 | (15,633)          | (15,633) | —   |
| (6) 短期借入金                     | (8,109)           | (8,109)  | —   |
| (7) 長期借入金                     | (38,359)          | (38,363) | 4   |
| (8) デリバティブ取引(※2)              | (34)              | (34)     | —   |

(\*) 負債に計上されているものについては、( ) で示しております。

(※1) 受取手形及び売掛金、営業貸付金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( ) で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 営業貸付金

一定の期間に区分した債権ごとに回収可能性を反映した元利金の受取見込額を新規貸付利率と信用リスクを考慮した利率で割り引いた現在価値により算定しております。ただし、有担保のものについては、担保による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託については、公表されている基準価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、満期保有目的の債券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額、その他有価証券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、取得原価又は償却原価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

満期保有目的の債券

(単位：百万円)

|                      | 種類      | 連結貸借対照表計上額 | 時価  | 差額 |
|----------------------|---------|------------|-----|----|
| 時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの  | 国債・地方債等 | —          | —   | —  |
|                      | 社債      | 246        | 285 | 38 |
|                      | その他     | —          | —   | —  |
|                      | 小計      | 246        | 285 | 38 |
| 時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの | 国債・地方債等 | —          | —   | —  |
|                      | 社債      | 82         | 76  | △6 |
|                      | その他     | —          | —   | —  |
|                      | 小計      | 82         | 76  | △6 |
| 合計                   |         | 329        | 361 | 32 |

その他有価証券

(単位：百万円)

|                                              | 種類       | 連結貸借対<br>照表計上額 | 取得原価又は<br>償却原価 | 差額     |
|----------------------------------------------|----------|----------------|----------------|--------|
| 連結貸借対照<br>表計上額が取<br>得原価又は償<br>却原価を超え<br>るもの  | (1) 株式   | 2,552          | 1,660          | 891    |
|                                              | (2) 債券   |                |                |        |
|                                              | ①国債・地方債等 | 195            | 156            | 39     |
|                                              | ②社債      | —              | —              | —      |
|                                              | ③その他     | —              | —              | —      |
|                                              | (3) その他  | 1,774          | 976            | 797    |
|                                              | 小計       | 4,522          | 2,793          | 1,728  |
| 連結貸借対照<br>表計上額が取<br>得原価又は償<br>却原価を超え<br>ないもの | (1) 株式   | 698            | 985            | △286   |
|                                              | (2) 債券   |                |                |        |
|                                              | ①国債・地方債等 | 159            | 301            | △141   |
|                                              | ②社債      | 1,060          | 1,239          | △178   |
|                                              | ③その他     | 748            | 892            | △143   |
|                                              | (3) その他  | 2,220          | 2,597          | △377   |
|                                              | 小計       | 4,886          | 6,015          | △1,128 |
|                                              | 合計       | 9,409          | 8,809          | 600    |

(5) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 短期借入金、(7) 長期借入金

借入金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。なお、一部の変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算出する方法によっております。

## (8) デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないもの

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりです。

## (1) 通貨関連

(単位：百万円)

| 区分            | 取引の種類          | 当連結会計年度（平成28年3月31日） |            |     |      |
|---------------|----------------|---------------------|------------|-----|------|
|               |                | 契約額等                | 契約額等のうち1年超 | 時価  | 評価損益 |
| 市場取引<br>以外の取引 | 通貨スワップ取引<br>買建 |                     |            |     |      |
|               | 米ドル            | 17,961              | 12,358     | 20  | 20   |
|               | ユーロ            | 2,200               | 898        | △56 | △56  |
|               | 合計             | 20,161              | 13,257     | △35 | △35  |

(注) 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格によっております。

## (2) 複合金融商品関連

(単位：百万円)

| 区分            | 取引の種類           | 当連結会計年度（平成28年3月31日） |            |    |      |
|---------------|-----------------|---------------------|------------|----|------|
|               |                 | 契約額等                | 契約額等のうち1年超 | 時価 | 評価損益 |
| 市場取引<br>以外の取引 | デリバティブ内包型<br>預金 | 300                 | —          | 1  | 1    |
|               | 合計              | 300                 | —          | 1  | 1    |

- (注) 1. 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格によっております。  
 2. デリバティブ内包型預金の時価は、複合金融商品の組込デリバティブを区分処理したものであります。  
 3. 契約額等はデリバティブ内包型預金の元本で、この金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

| 区分        | 連結貸借対照表計上額 |
|-----------|------------|
| 非上場株式     | 3,632      |
| 投資事業組合出資金 | 1,536      |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

## (注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

|                   | 1年以内   | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超   |
|-------------------|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 預金                | 19,439 | —           | —           | —           | —           | —     |
| 受取手形及び売掛金         | 9,279  | —           | —           | —           | —           | —     |
| 営業貸付金             | 5,547  | 5,509       | 4,076       | 2,605       | 341         | 1     |
| 有価証券及び投資有価証券      |        |             |             |             |             |       |
| 満期保有目的の債券         |        |             |             |             |             |       |
| (1) 国債・地方債券等      | —      | —           | —           | —           | —           | —     |
| (2) 社債            | 182    | 146         | —           | —           | —           | —     |
| (3) その他           | —      | —           | —           | —           | —           | —     |
| その他有価証券のうち満期があるもの |        |             |             |             |             |       |
| (1) 国債・地方債券等      | —      | 236         | —           | —           | —           | 119   |
| (2) 社債            | —      | 428         | 440         | 107         | —           | 82    |
| (3) その他           | 173    | 511         | 100         | 1,392       | 361         | 1,212 |
| 合計                | 34,622 | 6,831       | 4,617       | 4,106       | 703         | 1,416 |

## (注4) 借入金の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

|       | 1年以内  | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超    |
|-------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 短期借入金 | 5,050 | —           | —           | —           | —           | —      |
| 長期借入金 | 3,059 | 12,225      | 2,725       | 2,725       | 2,762       | 17,921 |
| 合計    | 8,109 | 12,225      | 2,725       | 2,725       | 2,762       | 17,921 |

## 5. 賃貸等不動産に関する注記

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸商業施設を所有しております。なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

|                        | 連結貸借対照表計上額  |            |            | 当連結会計年度末時価 |
|------------------------|-------------|------------|------------|------------|
|                        | 当連結会計年度期首残高 | 当連結会計年度増減額 | 当連結会計年度末残高 |            |
| 賃貸等不動産                 | 23,252      | 832        | 24,085     | 26,090     |
| 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産 | 411         | △5         | 405        | 215        |

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度の賃貸等不動産の主な増加は、賃貸オフィスビル（土地を含む）の取得（1,205百万円）によるものであります。
3. 当連結会計年度末の賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額には、資産除去債務（29百万円）を含んでおります。
4. 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額によります。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。また、重要性が乏しいものについては、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく価額等を時価としております。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する平成28年3月期における損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

|                        | 賃貸収益  | 賃貸費用 | 差額  | その他<br>(売却損益等) |
|------------------------|-------|------|-----|----------------|
| 賃貸等不動産                 | 1,425 | 750  | 674 | 303            |
| 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産 | 12    | 2    | 9   | —              |

(注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、租税公課、支払手数料等)については、賃貸費用に含まれております。

#### 6. 1株当たり情報に関する注記

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 824円56銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 36円45銭  |

# 貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 資産の部            |                | 負債の部            |                |
|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| 科目              | 金額             | 科目              | 金額             |
| <b>流動資産</b>     | <b>65,477</b>  | <b>流動負債</b>     | <b>43,631</b>  |
| 現金及び預金          | 10,455         | 支払手形            | 5,772          |
| 売掛金             | 7,126          | 買掛金             | 6,059          |
| 有価証券            | 1,018          | 短期借入金           | 18,587         |
| 商品              | 10,142         | 1年内返済予定の長期借入金   | 2,970          |
| 貯蔵品             | 744            | 未払金             | 313            |
| 販売用不動産          | 999            | 未払費用            | 6,241          |
| 前払費用            | 744            | 未払法人税等          | 1,024          |
| 繰延税金資産          | 449            | 一時的負債           | 601            |
| 短期貸付金           | 30,350         | 前受り金            | 183            |
| 未収入金            | 3,632          | 預り金             | 281            |
| その他金            | 564            | 賞与引当金           | 342            |
| 貸倒引当金           | △749           | 返品調整引当金         | 64             |
| <b>固定資産</b>     | <b>79,979</b>  | ポイソンの引当金        | 592            |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>38,202</b>  | その他             | 597            |
| 建物              | 17,788         | <b>固定負債</b>     | <b>39,703</b>  |
| 構築物             | 468            | 長期借入金           | 37,456         |
| 機械及び装置          | 796            | リース負債           | 1,081          |
| 車両運搬具           | 34             | 退職給付引当金         | 60             |
| 器具及び備品          | 242            | 役員退職慰労引当金       | 252            |
| 土地              | 18,500         | 資産除去債務          | 119            |
| 一ス資産            | 335            | その他             | 733            |
| 建設仮勘定           | 34             | <b>負債合計</b>     | <b>83,334</b>  |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>2,243</b>   | <b>純資産の部</b>    |                |
| ソフトウェア          | 618            | 株主資本            | 61,520         |
| その他             | 1,331          | 資本剰余金           | 10,607         |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>39,533</b>  | 資本剰余金           | 11,003         |
| 投資有価証券          | 13,181         | 資本準備金           | 11,002         |
| 関係会社株           | 24,940         | その他資本剰余金        | 0              |
| 長期貸付金           | 453            | 利益剰余金           | 49,587         |
| 繰延税金資産          | 402            | 利益準備金           | 188            |
| その他の他           | 640            | その他利益剰余金        | 49,398         |
| 貸倒引当金           | △84            | 別途積立金           | 27,183         |
| <b>資産合計</b>     | <b>145,457</b> | 繰越利益剰余金         | 22,215         |
|                 |                | 自己株式            | △9,677         |
|                 |                | 評価・換算差額等        | 602            |
|                 |                | その他有価証券評価差額金    | 602            |
|                 |                | <b>純資産合計</b>    | <b>62,122</b>  |
|                 |                | <b>負債・純資産合計</b> | <b>145,457</b> |

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目                   | 金     | 額      |
|-----------------------|-------|--------|
| 売 上 高                 |       | 92,899 |
| 売 上 原 価               |       | 42,432 |
| 売 上 総 利 益             |       | 50,467 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |       | 45,062 |
| 営 業 利 益               |       | 5,404  |
| 営 業 外 収 益             |       |        |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金     | 761   |        |
| 為 替 差 益               | 18    |        |
| 有 価 証 券 利 息           | 308   |        |
| 助 成 金 収 入             | 211   |        |
| そ の 他 の 収 益           | 751   | 2,051  |
| 営 業 外 費 用             |       |        |
| 支 払 利 息               | 314   |        |
| 支 払 手 数 料             | 199   |        |
| 減 価 償 却 費             | 187   |        |
| デ リ バ テ ィ ブ 評 価 損     | 1,544 |        |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額       | 4     |        |
| 店 舗 閉 鎖 損 失           | 62    |        |
| そ の 他 の 費 用           | 271   | 2,584  |
| 経 常 利 益               |       | 4,871  |
| 特 別 利 益               |       |        |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益     | 107   | 107    |
| 特 別 損 失               |       |        |
| 固 定 資 産 除 却 損         | 310   |        |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損     | 858   | 1,168  |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |       | 3,810  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 |       | 1,651  |
| 法 人 税 等 調 整 額         |       | △19    |
| 当 期 純 利 益             |       | 2,178  |

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                                 | 株 主 資 本 |           |                |              |           |                          |               |              |         |             |
|---------------------------------|---------|-----------|----------------|--------------|-----------|--------------------------|---------------|--------------|---------|-------------|
|                                 | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |                |              | 利 益 剰 余 金 |                          |               |              | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
|                                 |         | 資本準備金     | そ の 他<br>資本剰余金 | 資本剰余金<br>合 計 | 利益準備金     | その他利益剰余金<br>別 途<br>積 立 金 | 繰越利益<br>剰 余 金 | 利益剰余金<br>合 計 |         |             |
| 平成27年4月1日 残高                    | 10,607  | 11,002    | 0              | 11,003       | 188       | 27,183                   | 21,252        | 48,624       | △9,676  | 60,557      |
| 事業年度中の変動額                       |         |           |                |              |           |                          |               |              |         |             |
| 剰余金の配当                          |         |           |                |              |           |                          | △1,215        | △1,215       |         | △1,215      |
| 当期純利益                           |         |           |                |              |           |                          | 2,178         | 2,178        |         | 2,178       |
| 自己株式の取得                         |         |           |                |              |           |                          |               |              | △0      | △0          |
| 自己株式の処分                         |         |           | 0              | 0            |           |                          |               |              | 0       | 0           |
| 株主資本以外の<br>項目の事業年度中<br>の変動額(純額) |         |           |                |              |           |                          |               |              |         |             |
| 事業年度中の変動額合計                     | －       | －         | 0              | 0            | －         | －                        | 963           | 963          | △0      | 962         |
| 平成28年3月31日 残高                   | 10,607  | 11,002    | 0              | 11,003       | 188       | 27,183                   | 22,215        | 49,587       | △9,677  | 61,520      |

|                                 | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |                        | 純 資 産 合 計 |
|---------------------------------|------------------|------------------------|-----------|
|                                 | その他有価証券<br>評価差額金 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |           |
| 平成27年4月1日 残高                    | 1,313            | 1,313                  | 61,871    |
| 事業年度中の変動額                       |                  |                        |           |
| 剰余金の配当                          |                  |                        | △1,215    |
| 当期純利益                           |                  |                        | 2,178     |
| 自己株式の取得                         |                  |                        | △0        |
| 自己株式の処分                         |                  |                        | 0         |
| 株主資本以外の<br>項目の事業年度中<br>の変動額(純額) | △711             | △711                   | △711      |
| 事業年度中の変動額合計                     | △711             | △711                   | 251       |
| 平成28年3月31日 残高                   | 602              | 602                    | 62,122    |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

② 子会社株式

移動平均法による原価法

③ その他有価証券

・時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

・時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びこれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額の損益を取り込む方法によっております。

④ デリバティブ取引により生じる正味の債権（及び債務）

時価法

⑤ たな卸資産

・商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

・貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

・販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

・自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

・その他の無形固定資産

定額法によっております。

- ③ リース資産（所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産）  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
- (3) 引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金  
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金  
従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度末に負担すべき額を計上しております。
- ③ 返品調整引当金  
当事業年度末日後の返品による損失に備えるため、過去の返品実績率等により、返品見込額に対する売上総利益相当額を計上しております。
- ④ ポイント引当金  
将来のポイント使用による費用に備えるため、過去の使用実績率に基づき当事業年度末において利用が見込まれる額を計上しております。
- ⑤ 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。
- ・退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

- ・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生事業年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生事業年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の計算書類における取扱いが連結計算書類と異なります。

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

⑥ 役員退職慰労引当金

(4) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たしている金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ・金利キャップ  
ヘッジ対象・・・借入金利息

③ ヘッジ方針

金利変動リスクの低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップ及び金利キャップについては、有効性の判定を省略しております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(6) 表示方法の変更

(損益計算書)

- ① 前事業年度において、営業外収益「その他の収益」に含めて表示しておりました「有価証券利息」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

なお、前事業年度における「有価証券利息」の金額は220百万円であります。

- ② 前事業年度において、営業外費用「その他の費用」に含めて表示しておりました「店舗閉鎖損失」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

なお、前事業年度における「店舗閉鎖損失」の金額は57百万円であります。

## 2. 貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産

|         |          |
|---------|----------|
| 建物及び構築物 | 6,761百万円 |
| 土地      | 3,086百万円 |
| 合計      | 9,847百万円 |

上記に対する債務は次のとおりであります。

|       |           |
|-------|-----------|
| 短期借入金 | 1,798百万円  |
| 長期借入金 | 23,853百万円 |
| 合計    | 25,651百万円 |

### (2) 有形固定資産の減価償却累計額

14,935百万円  
減価償却累計額には、減損損失累計額を含めております。

### (3) 保証債務

下記のとおり債務保証を行っております。

|           |        |
|-----------|--------|
| フレンドリー(株) | 205百万円 |
| (株)ナースリー  | 1百万円   |
| 合計        | 207百万円 |

### (4) 財務制限条項

借入金残高のうち、25,651百万円の借入契約に、前事業年度末の純資産額（連結）の75%以上を維持する等の財務制限条項が付されております。

### (5) 連帯保証債務

下記のとおり、金融機関からの借入金に対して連帯保証を行っております。

|       |        |
|-------|--------|
| (株)守礼 | 254百万円 |
|-------|--------|

### (6) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

|          |           |
|----------|-----------|
| ① 短期金銭債権 | 32,294百万円 |
| ② 長期金銭債権 | 143百万円    |
| ③ 短期金銭債務 | 15,116百万円 |

## 3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高は次のとおりであります。

|              |          |
|--------------|----------|
| ① 売上高        | 575百万円   |
| ② 売上原価       | 3,370百万円 |
| ③ 販売費及び一般管理費 | 1,379百万円 |
| ④ 営業取引以外の取引高 | 843百万円   |

#### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数  
普通株式数

15,947千株

#### 5. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| 繰延税金資産       | (単位：百万円) |
|--------------|----------|
| 賞与引当金        | 121      |
| 返品調整引当金      | 19       |
| ポイント引当金      | 181      |
| 貸倒損失         | 25       |
| 投資有価証券評価損    | 264      |
| 債権譲渡損        | 243      |
| 貸倒引当金        | 254      |
| 関係会社株式評価損    | 36       |
| 退職給付引当金      | 18       |
| 販売用不動産評価損    | 13       |
| 固定資産減損損失     | 379      |
| 会社分割による子会社株式 | 446      |
| その他          | 223      |
| 繰延税金資産小計     | 2,228    |
| 評価性引当額       | △880     |
| 繰延税金資産合計     | 1,348    |
| 繰延税金負債       |          |
| その他有価証券評価差額金 | △263     |
| その他          | △233     |
| 繰延税金負債合計     | △496     |
| 繰延税金資産の純額    | 851      |

- (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異がある時の当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

|                      | (%)  |
|----------------------|------|
| 法定実効税率               | 32.8 |
| (調整)                 |      |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目   | 0.2  |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | △0.1 |
| 評価性引当額の増減            | 6.0  |
| 住民税均等割               | 0.6  |
| 税率変更による繰延税金資産・負債の変動額 | 1.4  |
| 過年度法人税等              | 1.7  |
| その他                  | 0.2  |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率    | 42.8 |

- (3) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立され、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.0%から平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については30.6%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、30.4%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は39百万円減少し、法人税等調整額が53百万円増加、その他有価証券評価差額金が13百万円増加しております。

## 6. 関連当事者との取引に関する注記

- (1) 親会社及び法人主要株主等

| 属 性                         | 会社等の名称    | 資本金又は出資金<br>(百万円) | 関連当事者との関係               | 議決権等の所有<br>(被所有)割合(%) | 取引の内容              | 取引金額<br>(百万円) | 科 目     | 期末残高<br>(百万円) |
|-----------------------------|-----------|-------------------|-------------------------|-----------------------|--------------------|---------------|---------|---------------|
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 | ㈱フレンドステージ | 50                | 業務の受託<br>保険料仲介<br>役員の兼任 | 被所有<br>直接<br>34.4     | 役務の提供<br>(注2)      | 11            | 売掛金     | 0             |
|                             |           |                   |                         |                       | 業務委託手数料の受取<br>(注2) | 48            | その他流動資産 | 13            |
|                             |           |                   |                         |                       | 保険料の支払<br>(注3)     | 99            | その他流動資産 | 32            |

### 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 役務の提供及び業務委託手数料については、業務内容を勘案し、両者協議の上で決定しております。  
 3. 保険料の支払については、一般的な保険料と同等の条件であります。

(2) 子会社等

| 属性  | 会社等の名称      | 資本金又は出資金 | 関連当事者との関係      | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 取引の内容                | 取引金額(百万円) | 科目    | 期末残高(百万円) |
|-----|-------------|----------|----------------|-------------------|----------------------|-----------|-------|-----------|
| 子会社 | ㈱リフレ        | 10百万円    | 資金の借入          | 所有直接100           | 資金の借入(注1)            | 600       | 短期借入金 | 9,309     |
| 子会社 | ㈱オージオ       | 100百万円   | 資金の借入<br>役員の兼任 | 所有直接100           | 資金の借入(注1)            | 700       | 短期借入金 | 2,900     |
| 子会社 | ㈱サンステージ     | 10百万円    | 資金援助           | 所有直接100           | 資金の貸付(注1)            | 600       | 短期貸付金 | 4,700     |
| 子会社 | ㈱BANKANわものや | 100百万円   | 資金援助           | 所有直接100           | 資金の貸付(注1)            | 600       | 短期貸付金 | 1,600     |
| 子会社 | ㈱テキサス       | 10百万円    | 資金援助<br>担保の被提供 | 所有直接100           | 資金の貸付(注1)            | 3,552     | 短期貸付金 | 18,836    |
|     |             |          |                |                   | 利息の受取(注1)            | 274       | —     | —         |
|     |             |          |                |                   | 銀行借入金に対する土地の担保提供(注2) | 9,500     | —     | —         |
| 子会社 | ㈱カリフォルニア    | 9百万円     | 資金援助           | 所有直接100           | 資金の貸付(注1)            | 2,775     | 短期貸付金 | 2,775     |

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 資金の借入及び貸付については、市場金利を勘案して決定しております。なお、担保は受け入れておりません。
2. 銀行借入金に対する土地の担保提供については、㈱テキサスからの不動産取得のための資金借入に対するものであります。

7. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 638円88銭
- (2) 1株当たり当期純利益 22円40銭

8. 連結配当規制適用会社に関する注記

当社は連結配当規制の適用会社であります。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成28年5月25日

株式会社ベルーナ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 布施木 孝 叔 ㊞  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 関 口 依 里 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ベルーナの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ペルーナ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成28年5月25日

株式会社ベルーナ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 布施木 孝 叔 ㊞  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 関 口 依 里 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ベルーナの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第40期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査等委員会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第40期事業年度の取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、以下の方法で監査を実施しました。

監査等委員会が定めた監査等委員会監査等基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係わる事業報告及び附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。  
また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成28年5月27日

株式会社ルーナ監査等委員会  
常勤監査等委員 萩原康雄 ⑩  
社外監査等委員 渡部行光 ⑩  
社外監査等委員 山縣秀樹 ⑩

(注) 監査等委員渡部行光及び山縣秀樹は、会社法第2条15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

第40期の期末配当につきましては、安定配当の維持、当期の業績、今後の事業展開等を総合的に勘案いたしまして以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金6円25銭といたしたいと存じます。  
この場合の配当総額は607,730,150円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成28年6月29日といたしたいと存じます。

第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）7名選任の件

取締役（監査等委員であるものを除く。）全員（7名）は本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役（監査等委員であるものを除く。）7名の選任をお願いするものであります。

取締役（監査等委員であるものを除く。）候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                          | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 所有する当社株式の数  | 当社との特別利害関係      |
|-------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------|
| 1     | やすのきよし<br>安野 清<br>(昭和19年12月14日生)      | 昭和52年6月 株式会社友華堂（現当社）設立<br>当社代表取締役社長（現任）<br><重要な兼職の状況><br>(株)フレンドステージ 代表取締役                                                                                                                                                                                                                                                 | 10,934,476株 | 欄外<br>(注)<br>参照 |
| 2     | やすのゆういちろう<br>安野 雄一朗<br>(昭和51年10月15日生) | 平成13年4月 国際証券株式会社（現三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社）入社<br>平成16年4月 当社入社<br>当社社長室勤務<br>平成17年3月 当社経営企画室長<br>平成21年6月 当社取締役経営企画室長<br>平成22年4月 当社取締役経営企画室担当兼受託事業本部長<br>平成23年4月 当社取締役常務執行役員新事業本部長兼受託事業本部長<br>平成24年4月 当社取締役常務執行役員企画本部長兼新事業本部長兼受託事業本部長<br>平成25年4月 当社取締役常務執行役員マーケティング本部長<br>平成26年4月 当社取締役常務執行役員マーケティング本部長兼マーケティング本部マーケティング室部長（現任） | 109,740株    | なし              |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                      | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 所有する当社株式の数 | 当社との特別利害関係 |
|-------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|
| 3     | ししどじゅんこ<br>宍戸 順子<br>(昭和33年5月22日生) | 昭和61年8月 株式会社友華堂（現当社）入社<br>平成5年4月 当社第一企画室参事<br>平成8年4月 当社第一企画室顧問<br>平成9年6月 当社取締役企画担当<br>平成23年4月 当社取締役執行役員社長室長<br>兼企画担当（現任）<br><br><重要な兼職の状況><br>㈱エルドラド 代表取締役                                                                                                                                                                                        | 38,648株    | なし         |
| 4     | しまのたけお<br>島野 武夫<br>(昭和25年2月23日生)  | 昭和48年4月 株式会社三和銀行（現株式会社三菱東京UFJ銀行）入行<br>平成9年2月 同行企画部品質管理室室長<br>平成12年5月 当社入社社長室顧問<br>平成18年6月 当社常務取締役資金部長<br>平成21年6月 当社専務取締役ファイナンス事業本部長兼資金部長<br>平成23年4月 当社取締役執行役員経営企画室長（現任）<br><br><重要な兼職の状況><br>フレンドリー㈱ 代表取締役                                                                                                                                        | 2,200株     | なし         |
| 5     | おいかわまさかず<br>生川 雅一<br>(昭和38年9月8日生) | 昭和61年4月 株式会社友華堂（現当社）入社<br>当社第二企画室勤務<br>平成8年3月 当社第二企画室マネジャー<br>平成15年4月 当社第九企画室マネジャー<br>平成17年3月 当社企画本部長<br>平成17年6月 当社取締役企画本部長<br>平成23年4月 当社取締役執行役員企画本部長<br>平成24年4月 当社取締役執行役員企画本部<br>営業推進室長<br>平成25年4月 当社取締役執行役員企画本部長<br>平成26年4月 当社取締役執行役員企画本部長<br>兼営業推進室長<br>平成27年4月 当社取締役（現任）<br><br><重要な兼職の状況><br>㈱ナースリー 代表取締役<br>㈱アンファミエ 代表取締役<br>㈱ベストサンクス 代表取締役 | 2,336株     | なし         |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                        | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                            | 所有する当社株式の数 | 当社との<br>特別利害<br>関係 |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------------|
| 6     | しもかわ ひでし<br>下川 英士<br>(昭和48年11月12日生) | 平成8年4月 当社入社<br>当社第二企画室勤務<br>平成19年4月 当社第二企画室マネジャー<br>平成22年1月 当社企画本部副本部長兼第二企画室部長<br>平成23年4月 当社執行役員企画本部副本部長兼第二企画室部長<br>平成23年6月 当社執行役員企画本部副本部長兼第二企画室部長兼店舗開発事業部長<br>平成25年4月 当社取締役執行役員企画本部副本部長兼店舗開発事業部長<br>平成26年4月 当社取締役執行役員店舗事業本部長(現任)<br><br><重要な兼職の状況><br>㈱ペルーナユナイテッド 代表取締役 | 3,340株     | なし                 |
| 7     | まつだ ともひろ<br>松田 智博<br>(昭和47年2月2日生)   | 平成8年4月 N I S グループ株式会社入社<br>平成20年5月 当社入社<br>当社経営企画室勤務<br>平成22年10月 当社経営企画室長<br>平成23年4月 当社執行役員管理本部長<br>平成25年4月 当社執行役員管理本部長兼総務本部長<br>平成27年4月 当社執行役員管理本部長<br>平成27年6月 当社取締役執行役員管理本部長<br>平成28年4月 当社取締役執行役員管理本部長兼総務本部長(現任)                                                       | 4,400株     | なし                 |

(注) 取締役候補者安野 清氏は、株式会社フレンドステージ代表取締役を兼務し、当社は同社との間に業務委託等の取引があります。  
なお、その他の取締役候補者と当社の間には、特別の利害関係はありません。

以 上





## 株主総会会場ご案内図

アリコベールサロン館4階 東武バンケットホール上尾  
埼玉県上尾市宮本町2番1号



### 交通

JR高崎線 上尾駅下車東口 徒歩1分